

2006年（平成18年）8月31日

福山市長 羽田 皓 様

福山市長期総合計画審議会
会 長 井 上 矩 之

第四次福山市総合計画基本構想について（答申）

2006年（平成18年）6月27日付け、福企第97号により諮問のあった『第四次福山市総合計画基本構想（素案）』について、次のとおり答申する。

1 答申の内容

本審議会において、『第四次福山市総合計画基本構想（素案）』（以下「素案」という。）は、福山市の今後10年間の目指すべき都市像やまちづくりの基本的な方向性を示し、その実現のための施策の大綱を明らかにし、市制100周年に向けた新しいまちづくりの指針とするためのものとして、おおむね妥当であると判断した。

ただし、審議の過程で、各委員から出された意見を基に、本審議会として素案の一部を別紙のとおり修正するよう要望するものである。

また、各委員の意見のうち、素案の修正までに至らなかったものについては、別紙中の「審議の過程において出された意見等」としてまとめ、今後策定される基本計画の中で、意見の趣旨が活かされるよう配慮を求めるものである。

総合計画策定に当たっては、市民に分かりやすい表現とするとともに、今後大きく変化する社会経済情勢に対応しつつ、市民との協働によるまちづくりを通じて計画の実現に努められるよう希望するものである。

2 諮問の経過について

今年度福山市が、2007年度（平成19年度）を初年度とする第四次福山市長期総合計画を策定するに当たり、今後の10年間の目指すべき都市像やまちづくりの基本的な方向性を示し、その実現のための施策の大綱を明らかにし、福山市の市制100周年に向けた新しいまちづくりの指針とするため、市長から総合計画基本構想について諮問を受けたものである。

3 審議経過等について

この諮問を受けて、本審議会は、6月27日から8月24日まで4回にわたり会議を開催し、総合計画基本構想について、「第四次福山市総合計画策定のための基礎調査報告書」や「福山市データ集」などを基に、また必要に応じて事務局へ資料請求を行い、その説明も求めながら慎重に審議した。

（1）これからの社会展望

我が国は、今後、急速な少子高齢時代の進行、人口減少社会への移行、団塊世代の大量退職など、社会構造の大きな転換期を迎える状況にあり、これからのまちづくりに当たっては、こうした社会情勢を展望し、時代の潮流に的確に対応していくことが不可欠である。

なお、「グローバル社会」を説明する場合には、地域社会に根差した特性や歴史・文化などの理解を持つことが重要であるという視点が必要であり、また経済のグローバル化においては、世界経済の動向を踏まえた施策の推進を図ることが求められている。

（2）福山市の現状と特性

本審議会は、「第四次福山市総合計画策定のための基礎調査報告書」や事務局に求めた資料などに基づき、福山市の現状と特性について審議を行った。

今後のまちづくりにおいては、大手メーカーやオンリーワン・ナンバーワンなど特色のある企業、伝統的な地場産業の集積や保育所等就学前の施設の充実など福山市の強みを活かし、また人口増加の停滞による都市活力の低下のおそれなどの弱みを克服することにより、個性豊かな地域づくりを行うことが重要である。

また、市民意識調査などによる市民ニーズを踏まえた施策・事業の展開が必要である。

（3）まちづくりの基本的課題

これからの社会展望や福山市の特性等を踏まえ、今後の福山市のまちづくりの基本的課題を「拠点性と求心力を備えたまちづくり」及び「健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくり」とする。

今後、福山市の地理的優位性を活かすとともに、合併地域を含めた本市の持つ地域資源や潜在能力を更に磨き輝かせ、中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力を備えた都市機能の充実と都市の特性の確立を図っていくことが求められている。また、こうした資質を活かし、すべての市民が福山市に住んで良かったと思えるような安心していきいきと快適に暮らせるまちづくりを推進していく必要がある。

(4) まちづくりの基本理念

福山市では、1979年（昭和54年）に策定した第一次総合計画以降、「人間環境都市」を都市建設の理念として掲げており、この基本理念を普遍の目標とし、第四次総合計画においても「人間環境都市」をまちづくりの基本理念とする。

(5) 将来都市像

福山市は、豊かな自然環境を始め、歴史・文化、ばらのまちづくり、特色ある技術やノウハウを持つオンリーワン・ナンバーワン企業、伝統的な地場産業など豊富な地域資源を有している。一方で、このような恵まれた地域資源は十分に活かされておらず、また「福山」という都市ブランドが全国に十分周知されているとはいえない状況にある。

今後の10年間のまちづくりに当たっては、福山市ならではの資源や特徴を活かし、福山市をアピールし、にぎわいがあり拠点性と求心力を持ったまちづくりを進めることが必要である。

また、だれもが健康でいきいきと、安心して安全に暮らせるまちづくりを行うとともに、未来の地域を支える子どもたちが生きる力や創造性を発揮できるような人材を育成することが今後のまちづくりには重要である。

さらに、このようなまちづくりを行うに当たっては、市民と行政がそれぞれの責任と役割を分担し、対等な立場で連携し、補完し協力し合いながら協働によるまちづくりを進めることが重要である。

このようなまちづくりを推進するため、他の案も含め検討した結果、福山市の将来都市像を「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 …ばらのまち 福山…」とした。

(6) まちづくりの基本方針

基本方針は、施策の大綱やそれに基づく施策を展開するに当たっての基本的な視点、共通の考え方になるものと位置付け、『「協働のまちづくり」を実践し、地域力を高める』、『地方分権時代に対応した「自立」したまちづくりを進める』、『「人づくり」を進め、新たな文化や産業などを創造する』、『福山を積極的・継続的に発信し、「都市ブランド力」を高める』を基本方針とするものとする。

ただし、基本方針と基本目標の関連が分かりにくいいため、施策体系図を修正すべきである。

また、都市内分権については、住民組織や行政組織への分権の趣旨を分かりやすく説明すべきである。

(7) まちづくりの基本目標

基本目標を、『1. だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち（安心・安全・環境）』、『2. 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち（保健・福祉・医療）』、『3. 多様に学び・文化をはぐくむまち（教育・文化）』、『4. 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち（活力・交流）』及び『5. 市民とともにつくる自立したまち（協働・行革）』とし、この基本目標の下にまちづくりを推進していくものとする。

(8) 施策の大綱

施策の大綱は、将来都市像を実現するための施策の基本的な枠組みとなるものとする。

『①だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち（安心・安全・環境）』においては、素案の内容に加え、荒廃した農地や山林への対応、また防災上の問題や景観面の観点からの施策も必要であり、「自然環境や森林の保全を図り」の表現を追加する。

『②子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち』においては、「高齢社会」に「豊かさ」の観点を追加する。

『③多様に学び・文化をはぐくむまち（教育・文化）』の基本施策の「生きる力と豊かな人間性をはぐくむ生涯学習社会の実現」においては、学校教育の重要性の観点から、学校教育と生涯学習の施策を分けるべきである。

また、競技スポーツも含めた幅広い分野のスポーツ活動を捉えるという趣旨から、「生涯スポーツ」を「スポーツ」と表記する。

『④産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち（活力・交流）』においては、素案の内容に加え、農業の多面的機能や地産地消の推進の面などからの施策や若年者や障害者、子育てと仕事の両立や子育て後の再就職支援の施策について追加する。

(9) 施策体系図

施策体系図は、構想の概要を表すものであり、全体のつながりを分かりやすく表示すべきである。

(別紙)

[素案の修正等の要望内容]

【序論】

1 『3 これからの社会展望と福山市の現状』

○ 「(1) これからの社会展望」のうち、①「グローバル社会」については、地域社会に根差した特性や歴史・文化などの理解を持つことが、今後の都市の在り方として重要となることから、次のとおり加えていただきたい。

・「～外国人など文化の異なる人との交流機会が増加するため、地域社会の特性や歴史・文化などへの理解を深める中、国際感覚を身に付けた人材育成が重要になります。」

○ 経済のグローバル化については、競争力を高めることではなく世界経済の動向を踏まえた施策の推進が必要であることから、文章表現について、次のとおり一部修正していただきたい。

・「～産業競争力を高め、世界経済の動向を踏まえた施策の推進を図っていくことが求められます。」

○ 「(2) 福山市の現状と特性」のうち、②「社会・経済的特性」については、福山市の優位性として伝統的な地場産業もあることから、次のとおり加えていただきたい。

・「～企業が多く立地しており、また伝統的な地場産業を有するなど、多種多様な製造業が集積～」

2 『4 まちづくりの基本的課題』

○ 「人口減少時代の中、拠点性と求心力を備えたまちづくり」の人口減少時代の中という表現については、本市においても少子化に伴って、今後人口が減少に転じることが予想されると思うが、基本的課題として社会現象を取り入れるのは適切ではないことなどから、「人口減少時代の中」を削除していただきたい。

・ 「拠点性と求心力を備えたまちづくり」

- 「政令指定都市と遜色ない」という表現が分かりにくいいため、文章表現について、次のとおり一部修正していただきたい。そして、地方の表記は、それぞれを明確に表した方が良く考えるので、「中四国地方」の表記については、「中国・四国地方」に統一していただきたい。

「
～政令指定都市に匹敵する都市機能を有した中国・四国地方の拠点都市としての可能性を秘めたまちでもあります。」

【構想】

3 『2 将来都市像』

- 市民と行政が「対等な立場」という表現については、協働のまちづくりの趣旨を明確にするため、次のとおり一部修正していただきたい。

「
～自主・自立のまちづくりを、市民と行政がそれぞれの責任と役割を分担し、対等な立場で連携し、補完し協力し合いながら、共通の目的を持って推進していきます。」

4 『3 まちづくりの基本方針』

- まちづくりの基本方針に掲げる4つの基本方針は、施策の大綱やそれに基づく施策を展開するに当たっての基本的な視点であり共通の考え方と理解するが、基本方針の表現や施策体系図を分かりやすく表記していただきたい。

- 『①「協働のまちづくり」を実践し、地域力を高める』の2段落目について、保健・福祉などの分野にもつながるような表現も必要であるため、次のとおり一部修正していただきたい。

「
今後、人口減少社会や少子高齢社会の進行といった社会環境の中、心豊かに楽しみとゆとりを持って生活できる社会の実現とともに、更に充実した取組が求められる福祉、健康、防災・防犯、環境、教育等の分野や外国人など文化の異なる人への対応も地域で支え合うことが必要です。」

- 『②地方分権時代に対応した「自立」したまちづくりを進める』については、住民組織や行政組織への分権の趣旨を分かりやすく説明するため、次のとおり一部修正していただきたい。

「
このため、真の意味での地方自治の確立に向け、行政を始め多様な主体による政策立案機能、事業遂行機能を高めることが必要です。そして、

地域の課題は地域で主体的に解決できるよう、自治会・町内会を始めとした住民組織が活動しやすい環境づくりを行うとともに、住民自治の拠点となる支所などへの分権を進め、地域としてまた都市としての自立を図ります。」

- 「政令指定都市と遜色ない」という表現が分かりにくいいため、次のとおり一部修正していただきたい。

「
また、福山を中心とする都市圏全体が自立して一体的発展ができるよう、政令指定都市に匹敵する都市機能を有した中国・四国地方の拠点都市として、より広域的な責任と役割を果していきます。」

- 『③「人づくり」を進め、新たな文化や産業を創造する』と文中の3段落目の表現について、人づくりは文化や産業だけでなく学校教育、生涯教育などあらゆる分野において重要であるため、「など」を加えていただきたい。

・『「人づくり」を進め、新たな文化や産業などを創造する』

「
～様々な課題を克服するとともに新たな文化や産業などを創造していきます。」

5 『4 まちづくりの基本目標と施策の大綱』

(1) まちづくりの基本目標

- 「4.産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち（産業・交流）」の中の（産業・交流）の表現については、大きな捉え方としては、「産業」より「活力」の方が適当であると考えるので、「活力」と表記していただきたい。

・「産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち（活力・交流）」

(2) 施策の大綱

『① だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち』

- 荒廃した農地，山林への対応として，防災上の問題や景観面の観点から，次のとおり加えていただきたい。

- ・「自然環境や森林の保全を図り，良好な景観やみどりのまちづくり～」

『② 子どもが健やかに育ち，だれもが健康でいきいきと暮らせるまち』

- 「活力あふれる高齢社会」について，豊かで活力ある高齢社会の実現の観点から，次のとおり加えていただきたい。

- ・「長寿を謳歌できる「活力あふれ豊かな高齢社会」の実現に向け，～」

『③ 多様に学び・文化をはぐくむまち』

- 「生涯スポーツ活動の推進」という表現では，競技スポーツも含む幅広い分野というスポーツ活動とは，捉えにくいので「生涯」を削除した表記にしていきたい。

- ・「市民が生涯にわたり，心身の健康を増進し，生きがいを持って生活できるよう，スポーツ活動の推進を図ります。」

(基本施策)

- ・「健やかな心と体を培うスポーツ活動の推進」

- 「生きる力と豊かな人間性をはぐくむ生涯学習社会の実現」について，学校教育も含めて生涯学習と表現しているが，学校教育は人づくりの面でも重要であることから，基本施策において次のとおり修正していただきたい。

- ・「しっかりと学び豊かな心をはぐくむ学校教育の充実」

- ・「楽しく集い学びの輪を広げる生涯学習の推進」

『④ 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち』

- 少子化問題や子育て支援策として，子どもを産み，育てやすい環境づくりとなると，働き続けるための施策，子育て後の再就職支援も重要であることから，次のとおり一部修正していただきたい。

- ・「若年者，障害者などの就職支援を始め，退職した団塊の世代の人材の

活用，子育てと仕事の両立や子育て後の再就職の支援など，やりがいと夢のある就業環境づくりを進めます。」

- 農業の持つ多面的機能や地産地消の推進，食の安心・安全の面からも農の持つ公益的機能を十分活かすことが重要であることから，次のとおり加えていただきたい。

- ・「豊かな生活環境の創出や生産基盤の整備に努め， 地域特性を活かした農林水産業の振興を図ります。」

- 基本方針は，すべての施策を展開するに当たっての共通の考え方であるが，基本方針の「都市ブランド」が基本施策の「福山ブランド」のみつながるような印象を与えるため，「福山ブランド」を削除していただきたい。

- ・「福山らしさの創出と積極的な発信を通じ， 活力と魅力があり，全国に誇ることができるまちを目指します。」

(基本施策)

- ・「福山らしさの創出と発信」

[審議の過程において出された意見等]

審議の過程において出された次の意見等については、今後策定される基本計画の中で十分活かされるよう配慮していただきたい。

- ① 青少年の健全育成の面からもスポーツは大切だと考えるので、スポーツに親しみ、楽しさや喜びを味わう機会の確保などが必要であり、体育振興の施策の展開を図っていただきたい。
- ② 調和のとれた産業構造を維持し、農業、工業など、ものづくりを大事にするまちづくりを進めていただきたい。
- ③ 農業の重要課題は、担い手不足の問題である。また、農業の楽しさをアピールすることや福山ブランド農産物の生産が定着できる施策の展開を図っていただきたい。
- ④ 介護保険の適正な運用を図っていただきたい。
- ⑤ フリーターとニートの問題は、就職支援の強化も必要と考えるが、学校教育において自分の将来に対し夢を持てるような教育が重要である。また、家庭の中でも、愛情をもった子育ての対応が必要と考えるので、その支援ができる施策の展開を図っていただきたい。
- ⑥ まちづくりの基本方針である「人づくり」については、特色ある学校教育や創造力を育てるという観点での施策展開を図っていただきたい。
- ⑦ 子育て支援の環境づくりが大切と考えるので、その支援ができる施策の展開を図っていただきたい。
- ⑧ 活力あふれる豊かな高齢社会の実現に向けた施策展開を図っていただきたい。
- ⑨ 歴史的・文化的遺産、特色ある技術を持つ製造業の集積、伝統的な地場産業といった本市が有する貴重な資源を活かし、全国に本市の魅力を発信するような施策を考えていただきたい。